

第16回

かんら家庭の日推進大会



**毎月第1日曜日は
家庭の日**

**毎月第1土曜日は
少年の日**

令和5年3月5日(日)

PM1:30～ (1:00開場)

甘楽ふれあいの丘 甘楽町文化会館 大ホール

主催 甘楽町青少年育成推進員連絡協議会・甘楽町教育委員会
後援 甘楽町区長会・甘楽町校長会・甘楽町小中学校 PTA 連合会
甘楽町民生委員児童委員協議会・甘楽町更生保護女性会
甘楽町子ども会育成会連絡協議会



かんら家庭の日推進大会

「家庭の日」の運動は、1955年（昭和30年）に鹿児島県生まれ、群馬県でも昭和40年、子どもの日を記念して提唱され、毎月第1日曜日を「家庭の日」と決めました。また、昭和58年度から毎月第1土曜日を「少年の日」と定め、「家庭の日」と連動した青少年の健全育成のための県民運動が推進されています。

家庭は、私たちの生活の基盤であり、家族の心のよりどころでもあります。

また、子どもたちにとっては、生きるルールを覚える最初の学校であり、知らず知らずのうちに、人格が形成されていく場でもあります。

家庭がそのような働きをよりよく発揮するためには、家族みんなの心がふれあう明るい家庭づくりを進めることが大切です。

甘楽町青少年育成推進員連絡協議会では、家庭の大切さ、家庭の役割のすばらしさ、青少年が自身の行動の責任と社会の一員としての自覚を深める日として、町内の小中学校から「家庭の日」「少年の日」の標語や作文などを募集し、表彰 作品展示 講演会を行い「かんら家庭の日推進大会」を開催いたします。

〔作品展示〕

甘楽町文化会館 3月5日（日）～3月21日（火）

「家庭の日」「少年の日」標語

「家庭の日」 作文

「家庭の日」「少年の日」絵画・ポスター

～ 次 第 ～

第一部

- | | |
|------------|---|
| 1. 開 会 | |
| 2. 主催者あいさつ | 甘楽町青少年育成推進員連絡協議会長 |
| 3. 表 彰 | 標語の部 作文の部 |
| 4. 来賓祝辞 | 甘 楽 町 長 茂原 莊一様
甘楽町議会議長 中野 喜久勇様
西部教育事務所次長 山田 康成様 |
| 5. 入賞作品発表 | 標語の部 作文の部 |
| 6. 講 評 | 甘 楽 町 教 育 長 近藤 秀夫 |
| 7. 閉 会 | |

第二部

アトラクション 甘楽中学校吹奏楽部

第16回「かんら家庭の日推進大会」標語・作文コンクール

【家庭の日 標語の部】

	作 品	学校・学年・氏名
最優秀賞	ありがとう 感謝の言葉を 家族にも	小幡小学校 5年 矢島 那奈
	ありがとう 言葉で伝わる あたたかさ	甘楽中学校 1年 大河原 衣恋
優 秀 賞	温かい 家族の言葉で ほっとする	小幡小学校 5年 市川 向希
	スマホより 家族の会話 大切に	小幡小学校 5年 田村 優朱
	る守番で わかる家族の 大切さ	新屋小学校 4年 岸 せいら
	あいさつは きずなをつなぐ 合言葉	小幡小学校 5年 堀込 岳琉
	家庭の日 心をこめて 「ありがとう」	新屋小学校 4年 山田 和花
	宝物 家族みんなで 過ごす日々	甘楽中学校 2年 森田 望花
	大切に 家族と築く 温かさ	甘楽中学校 1年 吉岡 真大
	悩みごと かかえず相談 家族の輪	甘楽中学校 2年 町田 優
	辛いこと 家族で分け合い 支え合う	甘楽中学校 2年 恩幣 陽菜
	笑顔の花 家族の時間で さかせよう	甘楽中学校 1年 神戸 陽向

第16回「かんら家庭の日推進大会」標語・作文コンクール

【少年の日 標語の部】

	作 品	学校・学年・氏名
最優秀賞	あいさつで みんなの元気 とりもどそう	新屋小学校 4年 茂木 香音
	あいさつは 一日過ごす あい言葉	甘楽中学校 1年 金井 祐
優 秀 賞	気をつけて 相手はどうかな その言葉	小幡小学校 6年 坂庭 華和
	その言葉 おくるまえに ひとこきゅう	福島小学校 6年 清水 琥次朗
	ありがとう その一言で 幸せに	新屋小学校 4年 滝上 望愛
	画面越し 交わす言葉は 武器となる	福島小学校 6年 清水 空麗
	いじめダメ してもされても 痛いんだ	小幡小学校 5年 小金澤 駿
	大丈夫？ 一人で悩まず 相談を	甘楽中学校 1年 生形 悠一郎
	考えて 相手の苦しみ 悲しみを	甘楽中学校 1年 渡邊 惺矢
	差別しない 相手の立場に なってみて	甘楽中学校 1年 小泉 彩希
	大丈夫 あなたを励ます 友がいる	甘楽中学校 1年 平石 剛輝
	見えている？ 画面の向こうの その顔が	甘楽中学校 1年 小菅 凜

第16回「かんら家庭の日推進大会」標語・作文コンクール

【家庭の日 作文の部】

	作 品	学校・学年・氏名
最優秀賞	おじいちゃんの野菜	新屋小学校 6年 松本 紗奈
	私の祖母の話	甘楽中学校 1年 茂原 和花
優 秀 賞	かけがえのない家族	小幡小学校 5年 田村 優朱
	有限の時間	福島小学校 6年 植松 結希歩
	僕の弟	新屋小学校 6年 藤原 陽音
	家族と過ごす時間の大切さ	甘楽中学校 1年 新井 結乃
	母の思いやり	甘楽中学校 1年 土筆 心愛
	忙しい日常から学んだこと	甘楽中学校 1年 青木 桜月

《最優秀賞》

おじいちゃんの野菜

甘楽町立新屋小学校 6年 松本 紗奈

私の家とおばあちゃん家は近いのでよく行くのですが、おばあちゃん家には畑があってそこで家庭菜園をしているおじいちゃんをよく見ます。たまにお母さんとお父さんが手伝ったりしています。ですが私は虫が苦手だったり暑いのが嫌という理由であまり手伝いませんでした。ですがある日のこと、おばあちゃんがいつも通りご飯をだしてくれたのですが食べてみたらとても美味しくて「この野菜すごく美味しい!!」と思わず口にだしてしまいました。そしたらおばあちゃんが「これはおじいちゃんたちが大切に育ててくれた野菜だよ」と言っていて本当にびっくりしました。私は暑い中でも頑張って家庭菜園をするおじいちゃんの姿が頭に浮かびました。これをきっかけに畑でどんなことをしているのか気になりだし少し手伝ってみようかなと思い、言ったところ一緒にできる範囲でいいからやってみようと言われ、することになりました。

後日、おじいちゃんから電話がかかってきて「今日は作業をするぞー」ということだったので私はすぐに用意をして向かいました。行くともうおじいちゃんが作業をしていたので急いで着替えて畑に向かいました。そしておじいちゃんに教わりながら野菜を収穫したり水やりをしました。楽しかったのですがこの日はとても暑く、虫も沢山いて私にとってすごく大変な作業でした。ですが私はハッとしました。「食べるにはこんなに大変なことをしなければいけなかったんだ」と思ったのです。それから私は少しでもおじいちゃんの手になれればいいなと思い、お手伝いをするようになりました。お手伝いをしているとおじいちゃんからいつも「ありがとう」と言ってくれていてすごくうれしくなります。さらにおじいちゃんと一緒に育ててきた野菜を食べてみたら、いつも以上に美味しく感じてうれしい気持ちでいっぱいになりました。そしてこれからもたくさん役立っていけるように頑張ろうと思います。

《最優秀賞》

私の祖母の話

甘楽町立甘楽中学校 1年 茂原 和花

私の家族は、私と父と母の三人家族です。でも、私は両親が共働きで、帰ってくる時間が遅いため、保育園に通っていた時は、祖母に送迎してもらっていた。さらに、小学校に入学してからの六年間も、一人っ子だったこともあり、夏休みや冬休みまで、祖母の家に行っていた。祖母の家に行くと、いとこの両親も共働きで、同じ小学校だったため、いとこと遊んだり、おやつや夕食をよく一緒に食べていた。だから、いとこは兄弟のように思っていた。私は、一人っ子と言われることが嫌いだったので、いとこといると一人っ子と思われたいし、とっても楽しかった。このように祖母の家に行けば、おやつと夕飯が用意されていたし、私にとっては、楽しく過ごすことができる最高の場所だった。

しかし、私が小学四年生くらいの時から、祖母は、認知症になり始めていた。当時の私は、あまり気にしていなかったけれど、段々と物忘れが増えてきた。物忘れをしている祖母に当時の私は、反抗的な態度をとっていたなど、今なら思えます。例えば、祖母が「昼食、食べたっけ？」と聞いてきても、私は、「食べたでしょ」と、これの繰り返し。何回も同じことを聞かれることが多くて、心の中では（何回聞くの）とっていて、それが声に出してしまった時。でも、母は「ばあちゃんは、何回も同じことを言ってるかもしれないけど、ばあちゃんにとっては、初めて言うことなんだよ。」と言ってきて、私は、母に言われるまで認知症の祖母を受け入れられていなかったのかもしれない。でも、この作文を書いて、祖母と一緒にいられる時間を大切に、祖母との会話を楽しんでできるようにしたいと思います。

《優秀賞》

かけがえのない家族

甘楽町立小幡小学校 5年 田村 優朱

「もっと家族を大切にしてほしい・・・。」自分の子供をぎゃく待する悲しいニュースを耳にして、私がそっ直に思う気持ちです。

私の家族は、父、母、弟、祖母の五人家族であり、みんなそれぞれ個性をもっています。とても明るく前向きな雰囲気がある家族です。

それでは、これから私の家族の長所について説明します。まず初めに、父です。父は、中学校教師をしており、とても熱い性格です。勉強や運動など何事にも一生懸命取り組まないと厳しく叱られます。でも、誰よりも応援してくれる存在です。私が悩んだ時には、とても親身になって相談に乗ってくれる優しい人です。次に母です。母は医療関係の仕事をしており、コロナの最前線である病院で、たくさんの患者のために一生懸命仕事をしています。明るく穏やかな性格で、家族を優しく包んでくれる存在です。次に弟です。小学二年生の弟は、家族で一番元気がいいです。ふざけてダンスをしてみたり、歌を歌ってみたりするなど、家族のムードメーカーです。最後に祖母です。祖母は、毎日、夕飯を作ってくれたり、習い事の送迎をしてくれたり、家族を支えてくれる存在です。

最近では、私と弟の習い事、父の部活動、母の土日出勤が重なることが多くなり、休みの日でも家族でゆっくり過ごすことは少なくなりました。だからこそ、何気ない日々の会話を大切にしています。互いにスマホを見ながら話をするのではなく、顔を見て話をしたり、一緒にテレビを見たりすることで、家族みんなで同じ時間を共有し、笑顔があふれる時間を過ごしています。こういった時間の積み重ねが、家族をかけがえのない存在にしていると強く思います。私自身、いつもありのままにいられる明るいこの家族がとても大好きです。

《優秀賞》

有限の時間

甘楽町立福島小学校 6年 植松 結希歩

私の家族は、いつも仕事をがんばっていれているお父さん、いろいろな家事や私のために自分の時間をつぶしてまでがんばってくれるお母さん、生意気だけど本当はおもしろくて、優しい兄です。私は、この四人家族で毎日を楽しく過ごしています。

今年の夏は、家族全員で花火を見に行ったり、家でバーベキューをしたりしました。最初は、いやがっていた兄ですが、結局一緒に楽しんでくれました。コロナウイルスが流行る前までは、県外に行きいろいろな山に行き登山をするのが私たち家族の楽しみでしたが最近では行けていません。そのかわりに、おうち縁日をしたりして最近では、例年とはちがった楽しさをあじわっています。でもなにより、家族みんなでなにかをすることが一番楽しいです。一人の楽しさよりも、四人の笑顔がかさなったほうがより楽しめることができるからです。

私は、今年の一年間、最高の家族との時間を過ごそうと決めています。なぜなら、来年からは家族との時間が減ってしまうかもしれないからです。私は来年から中学生です。兄は来年から高校生になります。そうになると、部活や勉強でいそがしくなり家族全員でなにかするとなると全員がそろわなくなることが多くなってしまうと思います。家族との時間が減ってしまうのは残念ですが、無理に勉強などの時間を減らすことは、できません。家族との時間は有限です。人生は、一度きりしかないし、過去をやりなおすこともできません。だからこそ私は、少ない家族との時間を最大限に楽しんで、家族みんなに笑顔をとどけます。

《優秀賞》

僕の弟

甘楽町立新屋小学校 6年 藤原 陽音

一緒に遊んでいるときに、突然「レッツゴー」といって変な顔をする。

休みの日に遊べるのが楽しみすぎて、朝五時には目を覚ます。

普段、家族で生活しているときには、敬語なんて使うことは全然ないのに、大人の人と話をするときには、きちんと敬語で話す。

これが僕の弟だ。歳は僕より五つ下。弟はとにかく元気で、いつでも面白く、そして、ときには礼儀正しい。

そんな弟が、今年小学生になった。元気すぎるから、交通事故にあわずにきちんと歩けるか心配で、入学前は、通学路と一緒に歩き学校までの行き方を教えた。ごそごそとしながらも、意外にも僕の後ろにピタッとついて歩けた。そんな弟はとてもかわいい。入学してからもとても心配で、勉強をしっかりやっているのかなと、1年生の教室の前を通った時にこっそりのぞいてみると、これまた意外にも弟は進んで手を挙げて発言したり、先生の話ちゃんと聞いていたりした。家とは違う所でも、頑張ってるんだなとうれしくなった。

弟はとにかく僕と一緒にすることがしたい。僕が本を読んでいると、本を読む。ゲームをしていると「一緒にやろうよ」と言ってくる。うまく意見が合わずに喧嘩する事もあるけど、すぐに「ごめんね。」とあやまってくれる素直で優しい弟だ。

そんな弟だが、生まれつき斜視で、1つのものがちゃんと見えていなかった。

そのため今年の6月に手術をした。コロナウイルスが流行っていて、病院は家族で一人しか付きそいできなかつたから、僕は行けなかつた。母のLINEを見ると「にいいいは大丈夫かなといていた」というのがあつた。そこには自分のことより人のことを心配してくれる優しさがあつた。最初はかなり心配だつたけど無事に終わったと聞いてホツとした。僕は、弟がいつも「一緒にゲームしよう。」「一緒に本読もう。」などと、何をするにも「一緒に」なのがとても嬉しい。

そして何より弟は、家族の中で一番身近な存在だ。普段、両親は仕事で夜遅く帰って来るからだ。

いつも一緒に寄り添い、優しくしてくれる弟をこれからもずっと大切にしていきたい。

《優秀賞》

家族と過ごす時間の大切さ

甘楽町立甘楽中学校 1年 新井 結乃

みなさんは家族と過ごす時間を大切にしていますか？私はとても大切にしています。なぜ家族と過ごす時間が大切なのでしょう。

私が大切だと思う理由は、家族と会話したり、ご飯を一緒に食べることでストレス解消や家族とのつながりを感じることができると思っています。学校での出来事や心配事などを家族に相談すると心配な気持ちが減り、そうすることで次の日には気持ちが楽になるので大切だと思います。

また、家族と会話し過ごしていると、他にも大切だと思うことに気が付きました。

家族の絆が深まるということです。家族と一緒に過ごす時間は家族の絆をより強くするのだと思います。

家族みんなで何かをするのが好きな家族は、対話を通じて相手の気持ちを考えられるようになることで、いつでも強い人間関係を作ることができ、ストレスを感じる状況も上手に乗り越えることができると思います。

そして、家族と一緒に過ごす時間が多い子供は、親と会話することに抵抗が少なく、学校での出来事を話したり、相談できるのだと思います。

私はこのように家族と過ごす時間の大切さに気が付きました。

私にとって家族と過ごす時間はとても大切で、なくてはならない時間です。これからは今まで以上に家族と過ごす時間を大切にし、家族とかがわる時間をできるだけ多く作っていきたいです。

コロナ禍によって、親は時間短縮勤務など家にいる時間が増えました。こうしたことで家族と一緒に過ごす時間が格段に増えてきたと思います。これを機に家族とのかかわりを密接にしてその大切さを一人でも多くの人に実感してもらいたいです。

みなさんも家族と一緒に過ごす時間を大切にしていきましょう。

《優秀賞》

母の思いやり

甘楽町立甘楽中学校 1年 土筆 心愛

私は最近家族にもものすごい苛立ちを覚えてしまいます。

私の家庭は、一般的な家庭です。父母、妹と私の四人家族で、決して仲が悪い訳でもありません。ですが、最近、本当に苛立ちを覚えることが多くあるのです。多分、私が思春期であり、反抗的になっているのでよけいにそう感じるのかもしれませんが。まず、どういう所が苛立つのかと言うと、やらなくていいことを無駄にやってくるのです。例えば朝、勝手に私の自転車を出したり、挙句の果て、カップ入れといたからとか言ってきたりヘルメットどうするのだったり、全部私がやれば必要のないことを言ってきたり、やってきたりするのです。その日は雲ひとつない青空で、雨が降るようにも思えませんでした。なので私は、こんなのただの持ち物の量が増えて重くなるだけなのになんで入れるんだろ、迷惑なんだけど。と思いつつまたもどすのもめんどくさいし、そのまま学校へ行きましたが、この事以外にも苛立つこともあって、その日はあまり機嫌がすぐれないままでした。親って本当に無駄なことしかしない。習い事にも自転車で行かせてくれないし、そう考えているのは私だけじゃないはずなのになんで気づかないのだろう。と考えながら数時間たつと、さっきまできれいに晴れていたはずの空が、雨雲にかわってしまいました。どうしようどうやって帰ろう。と考えていたら、母が入れておいてくれたカップを思い出しました。そっか、母は天気予報を見て私が雨に濡れないようにカップを入れてくれたんだ。と私は苛立っていたことを申し訳なく思いました。だって親も朝はいそがしいのにわざわざ私の準備をしてくれていたのに、私は母の事を悪く思ってしまいました。

今回の件で改めて母の大切さを知りました。親は子の為に時間を割いて尽くしてくれています。そんな親にはちゃんと口にだして感謝することを頭から離さないようにします。

《優秀賞》

忙しい日常から学んだこと

甘楽町立甘楽中学校 1年 青木 桜月

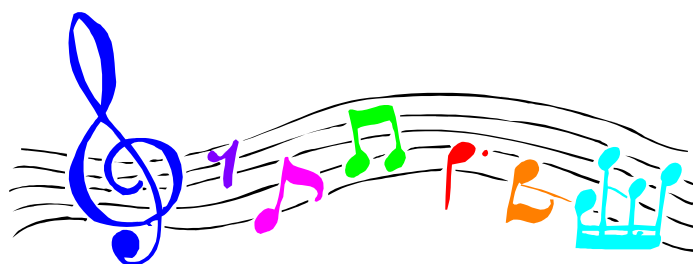
私は中学生になり、すごく家族との時間が減ったと思います。なぜかという、まず第一に部活が加わったからです。小学校では部活がなく、家族とふれ合う時間が今よりも多かったのに比べて今は休みの日も部活があり、平日も習い事などで帰ってきてからが忙しいです。そんな日常だからこそ、家庭で学んだ大切なことが二つあります。

一つ目は、『あいさつ』です。私は最近、「ってきます」や「おやすみ」などを言うようにしています。そうすれば、自分にとっての気持ちの切りかえにもなるし、なにより、家族のみんなの返事がうれしいからです。私はあいさつというものはすごく大事だと思います。それは、たった一言で家族との絆が深まるからです。忙しい日常だからこそ、家庭にとってあいさつはとても大事なので、これからも続けていこうと思いました。

二つ目は、『お手伝い』です。私はときどき、お手伝いをすることがあります。その時は、「めんどくさいなあー」と思いがちですが、「これは未来の自分のため！」と思うとすごくやる気が出ました。宿題や勉強があつて、お手伝いをするのは難しいけど、それでもお手伝いをすると、将来に役立つし、それに親も良い気持ちになって今からでも、少しずつ親孝行ができます。お手伝いは自分も良い事があるし、親にも良い事があります。なので今後はもっともっとお手伝いをしようと思いました。

このように、忙しい毎日だからこそ、学んだことがあります。これからは毎日が今まで以上に忙しくなると思うけど、学んだことを生かして元気に学校へ通っていきたいです。

アトラクション



甘楽中学校 吹奏楽部

1. NOVEVA

2. RPG

3. タッチ

